

# 排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：製紙工場における  
都市ガスボイラーの更新事業

排出削減事業者名：特種東海エコロジー株式会社

排出削減事業共同実施者名：ESカーボンクレジット合同会社

その他関連事業者名：

## 1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	特種東海エコロジー株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	特種東海エコロジー株式会社
住所	静岡県富士市厚原167-1
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	ES カーボンクレジット合同会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

## 2 排出削減活動の概要

### 2.1 排出削減事業の名称

製紙工場における都市ガスボイラーの更新事業

### 2.2 排出削減事業の目的

製紙工場において、既存の都市ガスボイラーを高効率の都市ガスボイラーに更新することにより省エネ及びCO2削減を図ることを目的としている。

### 2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

既存の都市ガスボイラーを高効率の都市ガスボイラーに変更

### 2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

### 2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

無し。

### 3 排出削減活動期間

#### 3.1 プロジェクト開始日

2011年6月 1日

#### 3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013年4月1日 ～ 2017年12月31日

### 4 温室効果ガス排出削減量

#### 4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

#### 4.2 活動量

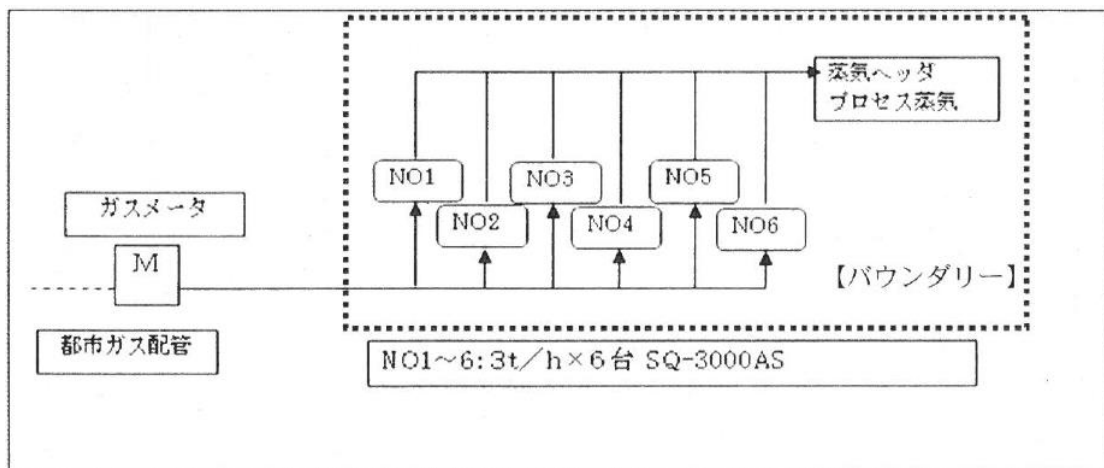
##### 4.2.1 活動量・原単位

活動量は採用しない。

##### 4.2.2 活動量の採用根拠

#### 4.3 事業の範囲 (バウンダリー)

都市ガスボイラーに更新するボイラー及びボイラーから蒸気の供給を受ける設備



## 5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場合、) 変更理由
$\epsilon_{PJ}$	事業実施後のボイラ効率	%	88.2	カタログ値 (高位ベース)	変更なし。
$\epsilon_{BL}$	事業実施前のボイラ効率	%	74.2	カタログ値 (高位ベース)	変更なし。
$CF_{fuel,BL}$	事業実施前燃料の単位発熱量あたりの排出係数	t-CO <sub>2</sub> /GJ	2013 年度～ 2014 年度 : 0.0517 2015 年度～ 2017 年度 : 0.0521	デフォルト値	変更なし。
$CF_{fuel,PJ}$	事業実施後燃料の単位発熱量あたりの排出係数	t-CO <sub>2</sub> /GJ	2013 年度～ 2014 年度 : 0.0517 2015 年度～ 2017 年度 : 0.0521	デフォルト値	変更なし。
$F_{fuel,PJ}$	事業実施後燃料の使用量	千 Nm <sup>3</sup> /年	2013 年度 : 5,913.4 2014 年度 : 5,862.8 2015 年度 : 5,824.6 2016 年度 : 5,424.1 2017 年度 : 4,063.9	都市ガス会社の請求書に記載された都市ガス使用量もしくは、流量計の数値を記録し、その値を標準状態量に換算する。	変更なし。
$HV_{fuel,PJ}$	事業実施後燃料の単位発熱量	GJ/ 千 Nm <sup>3</sup>	2013 年度 : 44 2014 年度 : 46.4 2015 年度～2017 年度 : 46	デフォルト値 (都市ガス)	変更なし。

## 6 排出削減量の計算

### 6.1 事業実施後排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	5,913.4	44	0.0517	13,451.8
2014 年度	5,862.8	46.4	0.0517	14,064.1
2015 年度	5,824.6	46	0.0521	13,959.3
2016 年度	5,424.1	46	0.0521	12,999.3
2017 年度	4,063.9	46	0.0521	9,739.5
単位	千 Nm3	GJ/千 Nm3	tCO2/GJ	tCO2
EM <sub>PJ</sub>				64,214.0

### 6.2 ベースライン排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	309,281.1		0.0517	15,989.8
2014 年度	323,359.6		0.0517	16,717.7
2015 年度	318,486.7		0.0521	16,593.2
2016 年度	296,583.7		0.0521	15,452.0
2017 年度	222,209.9		0.0521	11,577.1
単位	GJ		tCO2/GJ	tCO2
EM <sub>BL</sub>				76,329.8

### 6.3 リークエージ排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	0			0
2014 年度	0			0
2015 年度	0			0
2016 年度	0			0
2017 年度	0			0
LE				0

### 6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM <sub>BL</sub>	76,329.8
事業実施後排出量 (7.1)	EM <sub>PJ</sub>	64,214.0
リークエージ排出量 (7.3)	LE	0

温室効果ガス排出削減量	<i>ER</i>	12,115
-------------	-----------	--------

## 7 省エネルギー量

原油換算 (kl)		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン-実績 (①-②)
37,924.0	31,904.3	6,019.7

省エネルギー量(原油換算) = 6,019.7 kl

熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネ法）施行規則第4条に規定する換算係数を使用すること。

## 9 再生可能エネルギー利用量

なし。

	モニタリング期間 (2013年4月1日 ~ 2017年12月31日)			
	単位	エネルギー使用量	熱量換算 (GJ)	原油換算(kl)
		(実績)	(実績)	(実績)